

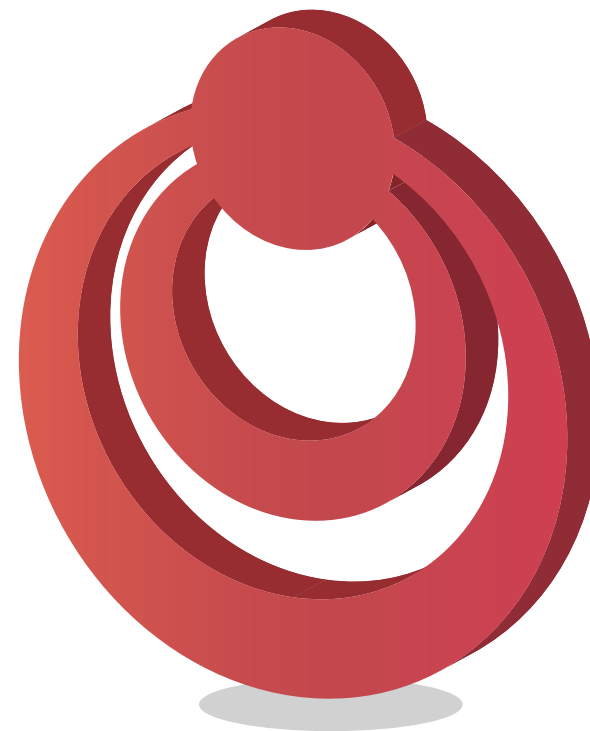
JES GROUP

証券コード 9249

日本エコシステム株式会社

2026年 9月期 2Q決算説明資料

2026年 05月 15日



2026年9月期 2Q ハイライト

M&A戦略により売上高は3四半期連続して過去最高を更新。

環境事業および交通インフラ事業の好調により営業利益が対前年比で増加

- ▶ M&A戦略により**売上高・営業利益共に増収増益**

(詳細は4ページをご覧ください。)

- ▶ 成長戦略である**M&Aを当期累計3件実行** (詳細は11ページをご覧ください。)

- ▶ J e s 東海通建(株)・(株)三進に加え、新たにグループインした**(株)カムラ技建**が通期にて業績に寄与 (詳細は9ページをご覧ください。)

目次

01	2026年9月期 2Q決算概要	P03
02	2026年9月期 M&A・PMI	P10
03	トピックス・サステナビリティ ..	P12
04	事業開発・研究開発の状況	P27
05	株式情報・株主還元	P30
06	役員紹介	P34
07	会社概要	P37



2026年9月期 2Q
決算概要

01

01

2Q 損益計算書サマリー

M&AによりJes東海通建・三進・カムラ技建が売上高・営業利益共に通期寄与。
全ての事業セグメントにおいて対前年比で売上高・営業利益共に増加

(百万円)

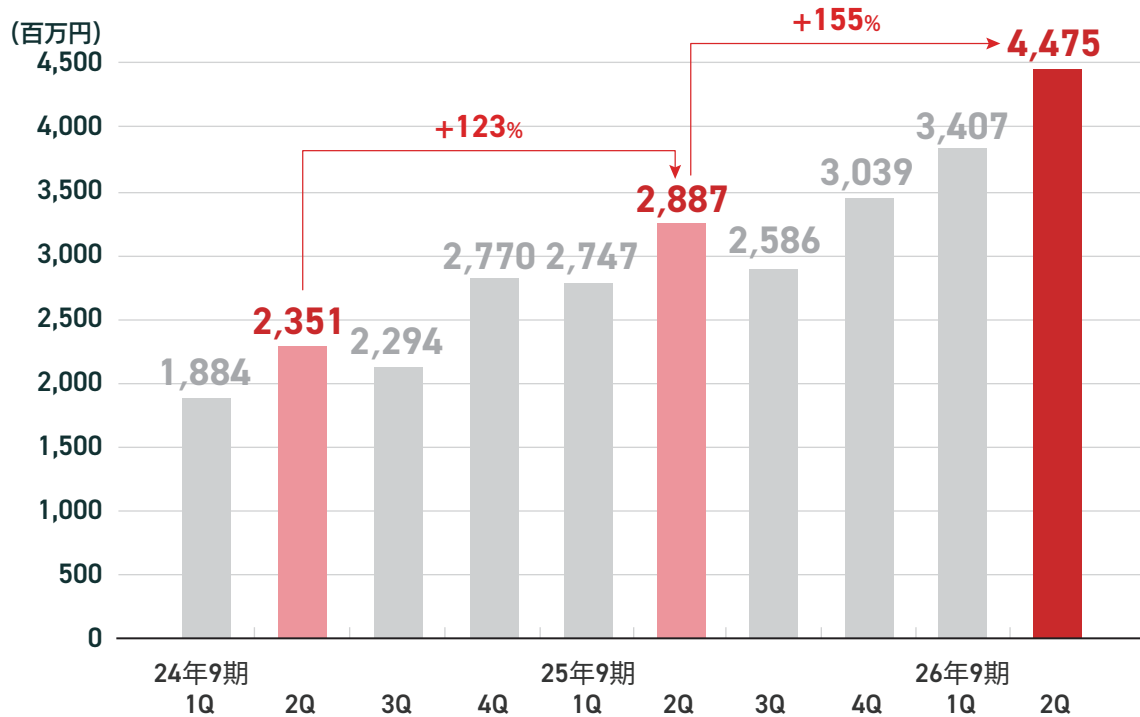
	2025年9月期 2Q実績	2026年9月期 2Q実績	対前年比	通期計画 2025/11/14公表	進捗率 対計画比
売上高	5,634	7,882	139.9%	14,200	55.5%
営業利益	423	1,019	240.8%	1,000	101.9%
経常利益	434	1,019	234.5%	1,000	102.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	523	687	131.4%	575	119.6%

売上高・営業利益の四半期推移

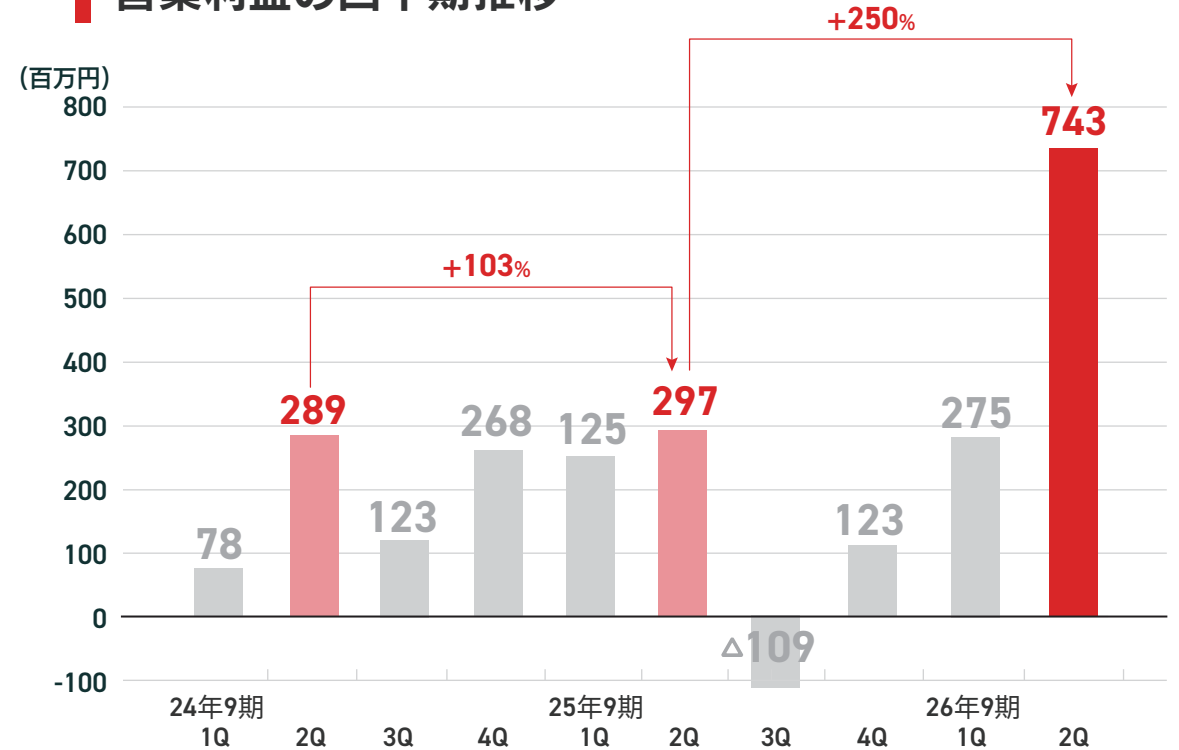
M&Aの継続的実行により売上高は順調に推移。

人材への成長投資および新規M&Aによる付随費用の増加をカバーし営業利益は対前年比で増加

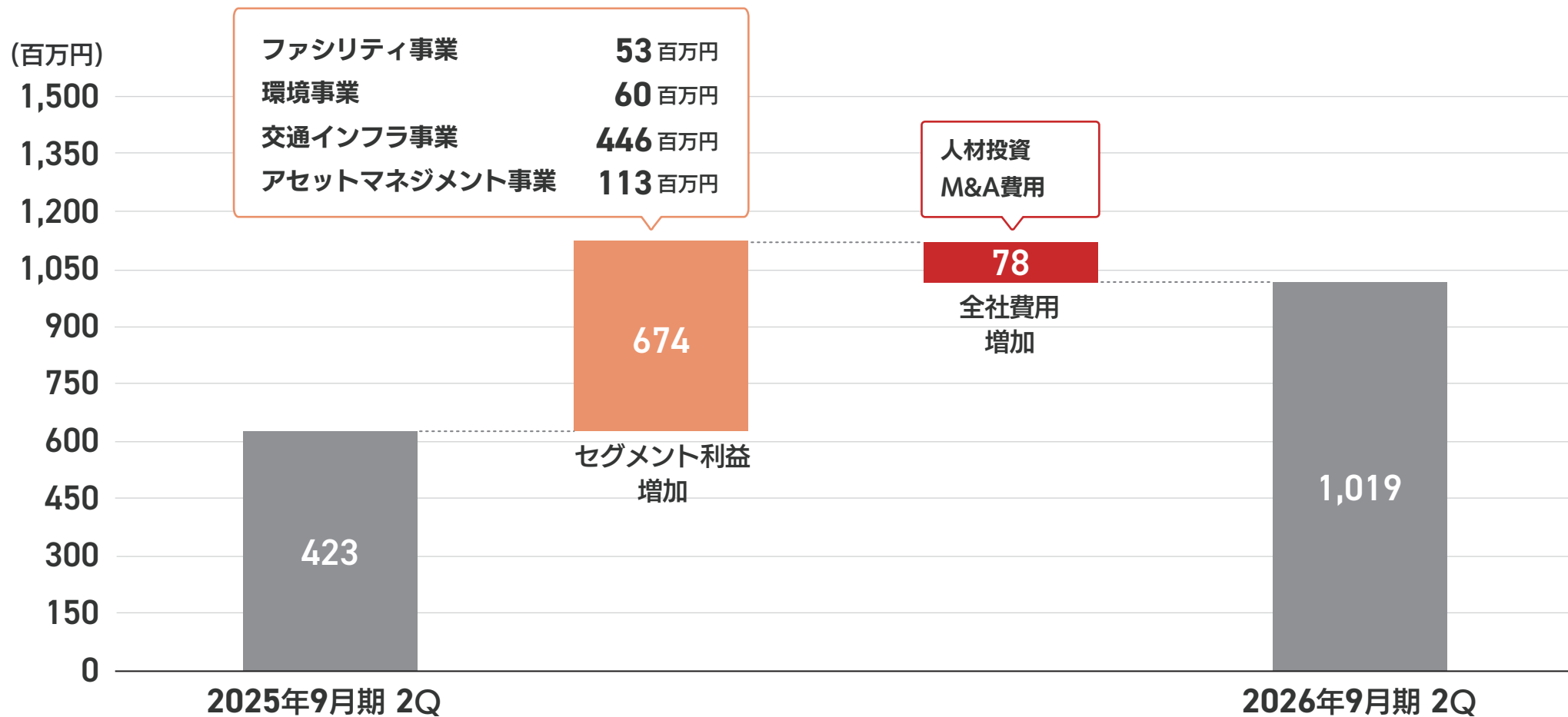
売上高の四半期推移



営業利益の四半期推移



2Q 営業利益の増減要因分析



2Q ファシリティ事業の売上高・営業利益

ファシリティ、公営競技関連、ICTソリューション

売上高

3,029 百万円 **116.0%** UP

営業利益

339 百万円 **118.8%** UP

対前年比



分析

- ① 空調給排水衛生設備の設計・施工・保全に関わる事業の増加
- ② 公営競技案件およびICTソリューション案件は堅調に推移



今後の取り組み

- ① 2026年4月においてJESファシリティーズと葵電気工業の統合により、空調給排水衛生設備事業の更なるシナジー効果の発揮
- ② 公営競技案件の営業体制強化

2Q 環境事業の売上高・営業利益

水循環システム・アクアリウム、産業用太陽光発電設備の施工

売上高

1,020 百万円 108.6% UP

営業利益

232 百万円 135.4% UP

対前年比



分析

- ① 水処理剤の事業規模が順調に拡大し、対前年比で売上・営業利益は増加
- ② 産業用太陽光（再生可能エネルギー）発電設備が売上・営業利益共に順調に推移



今後の取り組み

- ① 環境事業に関する事業領域の拡充
- ② 人員拡充による施工体制の強化

※LED事業の報告セグメントを交通インフラ事業から環境事業に変更したことに伴い、前2Qも変更後の区分により、比較しております。

2Q 交通インフラ事業の売上高・営業利益

施設（電気通信等）保全業務、道路保全業務

売上高

3,578 百万円 186.0% UP

営業利益

950 百万円 188.8% UP

対前年比



分析

- ① 2025年4月よりグループ化したJes 東海通建・三進および2025年10月よりグループ化したカムラ技建の通期寄与
- ② 高速道路運営事業者からの受注が順調に推移



今後の取り組み

- ① カムラ技建とのグループシナジーの発揮
- ② 神奈川県に興電社・石川県のテッククリエイトの両拠点を活かしエリア拡大を視野
- ③ 技術者の獲得および教育によりエンジニアリングサービス強化

2026年9月期

M&A・PMI

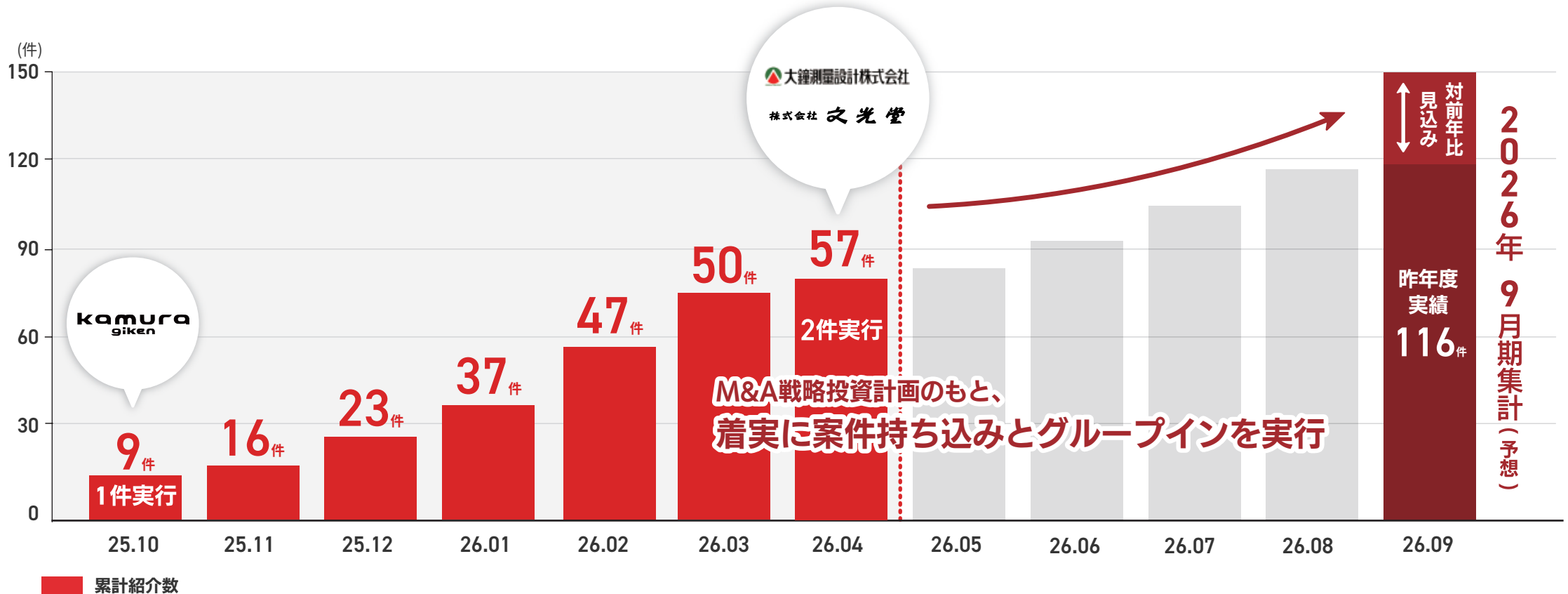
～2026/05/15時点含む

02

2026年9月期 M&A 案件累積推移

社内 M&A チームを組成し、オーガニック・インオーガニック両面での成長追求。

2026年9月期(26/5/15時点)は**3件のM&Aを実行**。仲介会社や金融機関からの紹介案件も継続獲得





トピックス・
サステナビリティ

～ 2026/05/15 時点含む

03

03

アクアリウム新規案件 3 件

01

鳥羽水族館

(ペンギン水槽改修工事)

三重県の「鳥羽水族館」にて、ペンギン水槽の改修工事を受注いたしました。鳥羽水族館からは、これまでも希少淡水魚水槽などの継続的にご発注いただいております。



02

黒川自然公園センター

(両面ガラス大型水槽 2 槽運搬・搬入・据付)

兵庫県の「黒川自然公園センター」にて、大型水槽 2 槽の運搬・搬入・据付工事を受注いたしました。これまでにない規模の水槽案件となり、当社の技術力向上につながる貴重な実績となりました。



03

東山動植物園世界のメダカ館

(メダカ館飼育・展示施設製造及び設置工事)

愛知県の「東山植物園 世界のメダカ館」における、メダカ館飼育・展示施設の製造および設置工事を受注いたしました。当施設での初案件となり、着実に当社の認知が広がっております。



03

大鐘測量設計のグループ化

静岡の地場有力企業の
大鐘測量設計をグループ化

大鐘測量設計は、静岡県を中心に横浜にも拠点を構え、測量・設計コンサルタント業務を展開しています。地方公共団体や大手ゼネコンを主な取引先とし、50年を超える業歴を有しています。さらに、世界遺産のアンコールワットの修復工事や石川県穴水町の地震災害設計業務など、豊富な実績を有しており、当社グループが総合建設コンサルタントとして業務領域を拡大していくうえで、川上業務の強化へ直結。グループシナジーとしては岐阜県で建設コンサル業を行う日新ブリッジエンジニアリング及び三進との既存顧客との相互活用や受注可能な業務規模の拡大を見込んでいます。



大鐘測量設計

測量・設計・補修・総合的なコンサル
主な取引先:地方公共団体や大手ゼネコン

建設コンサル事業の
3社連携でシナジー発揮

- 業務規模・範囲の拡大
- 既存顧客の相互活用
- JESアカデミーの活用



株式会社三進

企画・立案・調査・測量・補償・
計画・設計・コンサル

主な取引先:地方公共団体や高速道路運営事業者



日新ブリッジ

保全・調査・測量・計画・
設計・施工管理・コンサル

主な取引先:地方公共団体や建設コンサルタント



地域を盛り上げ 地域に貢献する企業へ

2026年4月1日、愛知県一宮市本町商店街に店舗を構える、地域密着型の文房具販売店である文光堂をグループ化しました。2026年に創業128年目を迎える老舗企業であり、主力事業としてオフィス向けの事務機器・事務用品を販売する「外商」を展開しています。当社は、地域とともに発展していく経営を目指しており、今回のグループ化もその一環であります。今後は、内装の大規模リニューアルや制服刷新など、これまで培われてきた魅力を活かしながら、より多くの方々に長い歴史を有する同社の価値を知っていただけるよう取り組んでまいります。

株式会社 文光堂



03

「海外事業 3 地域体制」構築に向けた第一歩を始動

市場調査の概要

2026年2月、JICAが主催する「中央アジアスタディツアー」に参加し、カザフスタン（2都市）、キルギス（1都市）での市場視察を行いました。同時にウズベキスタン（2都市）を当社独自に調査。その結果、当社の海外市場展開の対象地域として中央アジア地域の重要性を認識すると同時に、今後、米国市場、東南アジア市場に加え、中央アジア市場を含めた「海外事業3地域体制」の構築に向けた新規事業の開拓を進めてまいります



資源・エネルギー関連インフラ分野における
管理高度化および技術活用の検討を推進

中央アジア



アメリカ合衆国

次世代技術を活用したインフラ維持管理領域での
事業機会創出に向けた取り組みを推進



東南アジア

都市インフラ維持管理・廃棄物処理分野に加え、
太陽光発電リパワリング領域での事業展開を検討

上場を新たな起点に 地域経済への貢献を加速

2026年4月22日、当社は札幌証券取引所本則市場へ重複上場いたしました。当社グループは、北海道エリアにおける認知度のさらなる向上ならびに、株主・投資家・取引先をはじめとするステークホルダーの皆様との関係強化を目的として、札幌証券取引所への上場を決定いたしました。北海道は今後の事業展開において重要なエリアと位置付けており、地域に根差した成長戦略を推進してまいります。今回の重複上場を契機に、同地域における新たな取引先企業との関係構築や既存取引の拡充、人材採用力の強化、M&Aを通じた事業領域の拡大に取り組んでまいります。

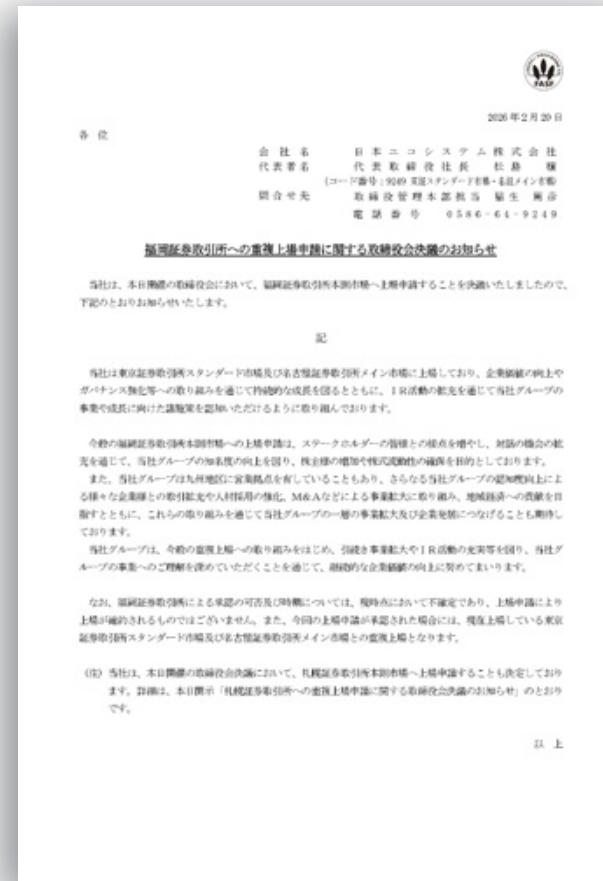


福岡市場上場 取締役会承認 (5月本則市場上場予定)

福岡証券取引所本則市場へ上場申請
2026年5月上場予定

2026年2月20日の取締役会において、福岡証券取引所本則市場への上場申請を決議いたしました。当社は既に東京証券取引所スタンダード市場および名古屋証券取引所メイン市場ならびに札幌証券取引所本則市場に上場しており、企業価値の向上やガバナンス強化、IR活動の拡充を通じて持続的な成長に取り組んでおります。今回の上場申請は、ステークホルダーとの接点拡大や対話機会の充実を図り、認知度向上および株主数の増加、株式流動性の向上を目的とするものです。また、当社グループは九州地区に営業拠点を有しており、今後は認知度向上を背景に、取引拡大や人材採用の強化、M&Aによる事業拡大を通じて地域経済への貢献を目指してまいります。これらの取り組みにより、さらなる事業成長と企業価値の向上を図ってまいります。

リンク (<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04893/86ddeb1e/7e90/4725/9818/38f9d1075147/140120260220566724.pdf>)



マロックス®マグキャリア®に関する 研究成果をポスター発表

2026年3月9日（月）～3月11日（水）に開催された第60回日本水環境学会年会において、当社開発の機能性環境材料「マロックス®マグキャリア®」に関する研究成果をポスター発表しました。本発表では、難分解性有機物および高窒素負荷廃水に対する有効性を検証し、産業排水処理の高度化・安定化に向けた技術的知見を提示しました。「マロックス®マグキャリア®」は、排水処理槽内の酸化還元環境に作用し、窒素挙動の改善を図る機能性環境材料です。従来の曝気制御を中心とした運転管理に加え、材料面から処理性能の向上と安定運用に寄与する新たなソリューションとして期待されています。今後も当社は、環境分野における研究開発を推進し、持続可能な社会の実現と事業成長の両立を目指してまいります。

リンク (<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04893/60b26b22/7276/41fb/8e2d/cfa02f06fcca/140120260306577208.pdf>)

グリーンラスト-黒鉛系複合材によるアクリロニトリル含有高塩分樹脂製造廃水の T-N/COD 負荷低減の検討

江崎 広太、杉浦 昌人、杉浦 美智代、吉田 昌（日本エコシステム株式会社）、
嶋尾 明史（群馬工業高等専門学校）

江崎 広太

1. 背景

一般に、樹脂製造工程からの廃水は、アクリロニトリル等の窒素や塩分が多く含まれており、処理負荷が大きく、生物処理が困難であるため、適切な処理による負荷低減が必要となる。本研究では、難分解性有機物グリーンラストと黒鉛系材料からなる複合材に着目し、これを生物処理の前処理に用いることで廃水中の T-N（全窒素）、および COD（化学的酸素要求量）TOC（全有機炭素）を低減することを試みた。

2. 実験方法

● 処理廃水 樹脂製造ラインから実際に排出されたアクリロニトリルを含む高塩分廃水（塩分濃度 約 3%）。

● 試験方法 原水の 1L に対して複合した複合材を 0.025%（重量%）を添加し、スターラーで攪拌しながら pH = 8.1-8.2 程度になるように 25%NaOH 溶液を段階的に添加し、ORP = -500 mV となった点から 12 時間および 30 時間後の水質分析を行った。

● 水質分析 処理した排水を 5℃ で保存したものを JIS K 0102 に準じて水質分析を行った。水質評価項目は、T-N、TOC、COD、Org-N、NH₄-N、NO₃-N、NO₂-N とした。



3. 結果と考察

● 結果 水質分析結果、原水中の T-N（230 mg/L）が 12 時間後に 68 mg/L、30 時間後には 44 mg/L にまで低減した（73%低減）。COD（660 mg/L）は、12 時間後に 39 mg/L、30 時間後には 24 mg/L にまで低減した（96%低減）。

● 考察 1 T-N（230 mg/L）の大塩分原水は、Org-N の低減（150 → 7 mg/L 12 時間 → 4 mg/L 30 時間）によると考えられる。一方、NH₄-N や NO₃-N の濃度変化は認められなかった。難分解性有機物グリーンラストの添加に有機物濃度が低下した点によるものと考えられる。

● 考察 2 TOC（260 mg/L）も 12 時間後に 40 mg/L、30 時間後には 29 mg/L にまで低減しており、有機物が大幅に減少していることが認められた。同時に有機物濃度もグリーンラストの添加により低下した点によるものと考えられる。

項目	原水	12h	30h
T-N (mg/L)	230	68	44
Org-N (mg/L)	150	7	4
COD (mg/L)	660	39	24
TOC (mg/L)	260	40	29
NH ₄ -N (mg/L)	67	60	58
NO ₃ -N (mg/L)	0.83	0.83	0.83
NO ₂ -N (mg/L)	0.84	0.80	0.92

● 結論 樹脂製造ラインから排出されるアクリロニトリルを含む高塩分廃水に対して、難分解性有機物グリーンラストと黒鉛系材料からなる複合材を用いることで、T-N および COD が大幅に低減されることを見出した（実験的に検証した）。この結果は、開発した複合材が樹脂製造ラインからの廃水の処理に極めて有効であり、その後の生物処理の負荷を大幅に低減させるものであることを示している。

謝辞 本研究の遂行にあたり、多大なるご協力をいただきました京都大学 島田祐一先生および研究家の皆様、群馬工業高等専門学校 研究家の皆様には深謝いたします。

03

中長期ビジョンの策定

社会・環境と共に発展できる 「エコシステム」の実現へ

2026年3月23日、当社は社会・環境と共に発展する「エコシステム」の実現に向け、中長期的な成長指針として「JESG中長期ビジョン」を策定いたしました。グループ20社の歴史と強みを活かした「群戦略」を推進するとともに、2026年9月期～2030年9月期の戦略投資計画では、M&A投資枠を100億円～300億円へ拡大し、持続的な成長基盤を強化してまいります。あわせて、人材育成や社会インフラサービスへの投資、サステナビリティ経営を推進し、売上高営業利益率8%～10%を維持しながら、企業価値の向上を目指してまいります。

リンク(<https://www.jp-eco.co.jp/ir/management/plan/>)

目次

☑ 長期ビジョン

☑ 中期ビジョン-JESG VISION2030

☑ M&Aの考え方



03

採用ページのリニューアル

人材獲得力の向上へ 採用ページを全面リニューアル

2026年3月31日、採用活動の強化および人的資本の拡充を目的として、採用ページをリニューアルいたしました。コンセプトは「100年先の常識を、デザインしよう。」とし、社会インフラを支える当社の仕事の意義や使命を発信しています。本サイトでは、各事業の紹介に加え、「エンジニアエコシステム」や教育・資格支援などのキャリアパス、社員インタビューを掲載し、当社の魅力や価値観を伝える内容としています。今後はコンテンツの拡充を進めるとともに、グループ全体への展開も視野に入れ、採用力のさらなる強化を図ってまいります。

採用ページ(<https://recruit.jp-eco.co.jp/>)



統合報告書2026の公開



持続的な企業価値向上を伝える 統合報告書2026を公開

2026年4月30日、「統合報告書2026」を発行し、ホームページに公表いたしました。今回の発行をもちまして、統合報告書は4年目を迎えます。当社は創業以来、経済性と公益性の両立を重視した経営を実践してまいりました。こうした考えのもと、公益資本主義の理念を核とした中長期ビジョンを策定しております。本ビジョンでは、ステークホルダーへの貢献と利益成長の両立を目指し、時価総額500億円、連結売上高500億円以上、営業利益率8～10%を数値目標として掲げております。さらに、今後5年間で100～300億円規模のM&A投資を実行し、健全な財務基盤を維持しながら、既存事業の拡大とさらなる成長加速を図ってまいります。

リンク(<https://www.jp-eco.co.jp/ir/library/others/>)

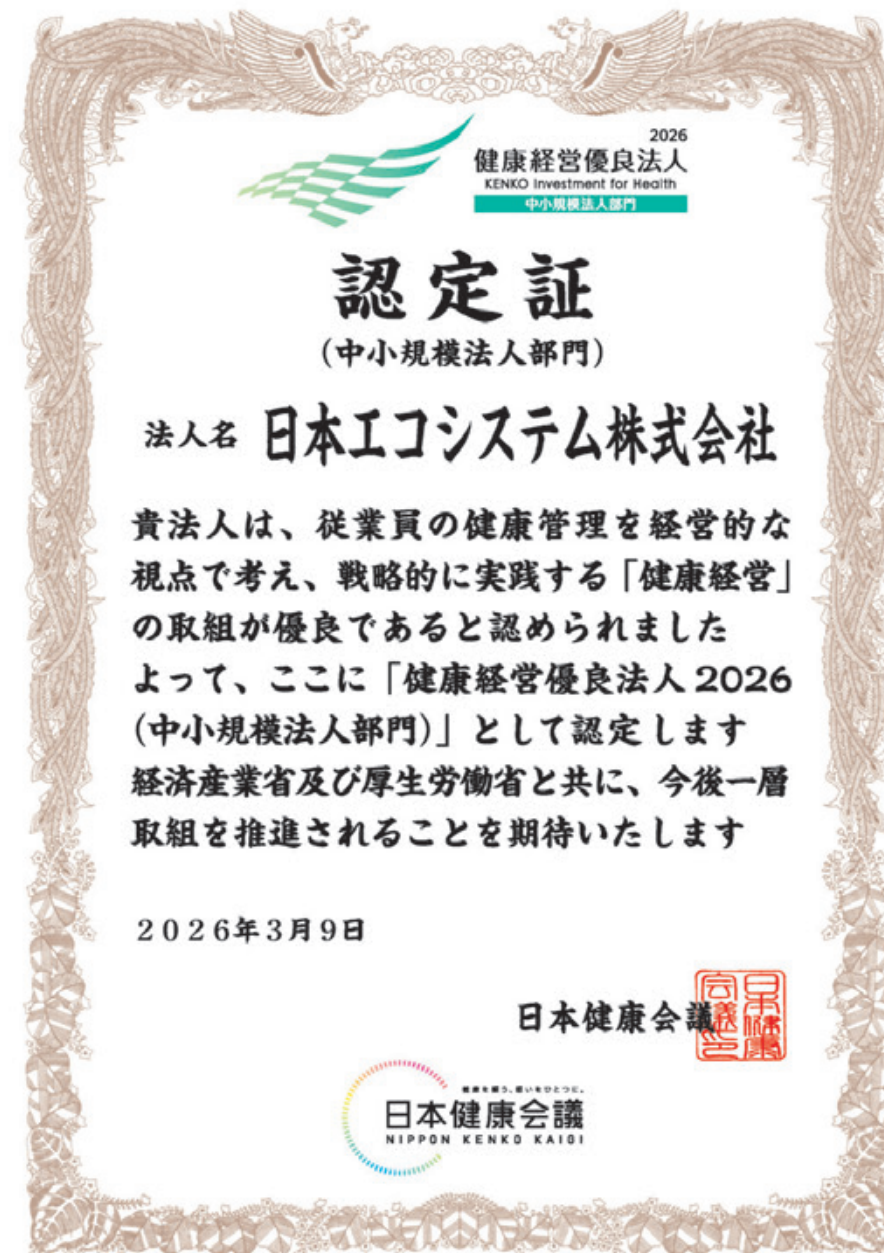
日本エコシステム株式会社
統合報告書 2026

JESG
INTEGRATED REPORT
2026

健康経営優良法人2026

健康経営優良法人2026に
6年連続で認定

2026年3月9日、経済産業省および日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）」に、6年連続で認定されました。当社グループは、「社会の課題を解決し、必要とされ続ける300年企業を創造する」というビジョンを掲げています。目まぐるしく変化する社会情勢の中で持続的な事業成長（年輪経営）を果たすための最大の原動力は、当社にとって最も重要な「人材」に他なりません。社員一人ひとりが日々の仕事に誇りを持ち、楽しみながら能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するため、当社は優秀な人材が「ずっと働きたい」と思える環境づくりを重要な経営課題と位置づけ、以下のような健康経営の取り組みを推進しております。



日本学生レゴ部ユニオンより 当社ビルモチーフの制作・贈呈

2025年3月14日から3月16日に開催された「第1回日本学生ブロック作品展示会」への協賛に対する御礼として、日本学生レゴ部ユニオンより、当社ビルをモチーフとしたレゴブロック作品を制作いただきました。本作品は、約6か月の制作期間を経て完成したもので、約83cmに及ぶ迫力ある作品となっております。細部まで丁寧に再現された高い完成度から、学生の皆様の創造力と技術力の高さを感じる内容となりました。当社は、今回の取り組みを通じて学生の皆様との交流を深めるとともに、若い世代の挑戦や創造活動を応援しております。今後も当社ビルを活用し、大学との連携イベントや地域交流の機会を積極的に推進してまいります。



03

日本エコシステム ソフトボールチーム

当社ソフトボール所属選手が U23世界大会優勝に貢献

2026年4月25日から5月3日にかけてコロンビアで開催された「第2回男子U23ワールドカップ」において、当社ソフトボールチーム所属の帆足陽平選手が日本代表選手として出場し、チームの初優勝に貢献いたしました。本大会では、世界各国の代表選手が出場する中、日本代表は決勝戦で前回大会優勝国であるオーストラリア代表と対戦。激戦を制し、見事、初の世界一に輝きました。帆足選手は投手としてチームを支え、日本代表の快挙に貢献しました。当社所属選手が、国際大会という世界最高峰の舞台で日本代表として活躍する機会を得たことを、大変誇りに思っております。また、2023年の「第14回男子U18ワールドカップ」においても、当社ソフトボールチーム所属の松尾唯斗選手が日本代表として出場しており、当社所属選手が継続的に世界の舞台で活躍しております。今後も当社は、スポーツ活動を通じた人材育成に取り組むとともに、日本国内のみならず、世界で活躍できる選手の育成・輩出に貢献してまいります。



WBSC
U-23 BASEBALL
WORLD CUP



03

サテライト一宮 地域イベントの開催 138 フェスティバル

地域に“にぎわい”を生む 人が集い交流が広がる憩いの場へ

当社グループのOTSが運営するサテライト一宮にて、2026年3月22日に「サテライト一宮フェスティバル」を開催しました。移動動物園やミニSL乗車体験、縁日など多彩な催しを実施し、親子連れをはじめ、普段サテライト一宮をご利用いただく機会の少ない方にも多数ご来場いただき、多くのご好評の声を頂戴いたしました。当日は地域の皆さまに気軽にお立ち寄りいただける機会となり、施設の新たな魅力を感じていただく場となりました。サテライト一宮では、こうした季節イベントに加え、ライブイベントなども継続的に開催しております。今後も、公営競技の予想施設としての機能にとどまらず、地域の皆さまにとって親しみやすく、憩いの場としてご利用いただける施設づくりを推進してまいります。





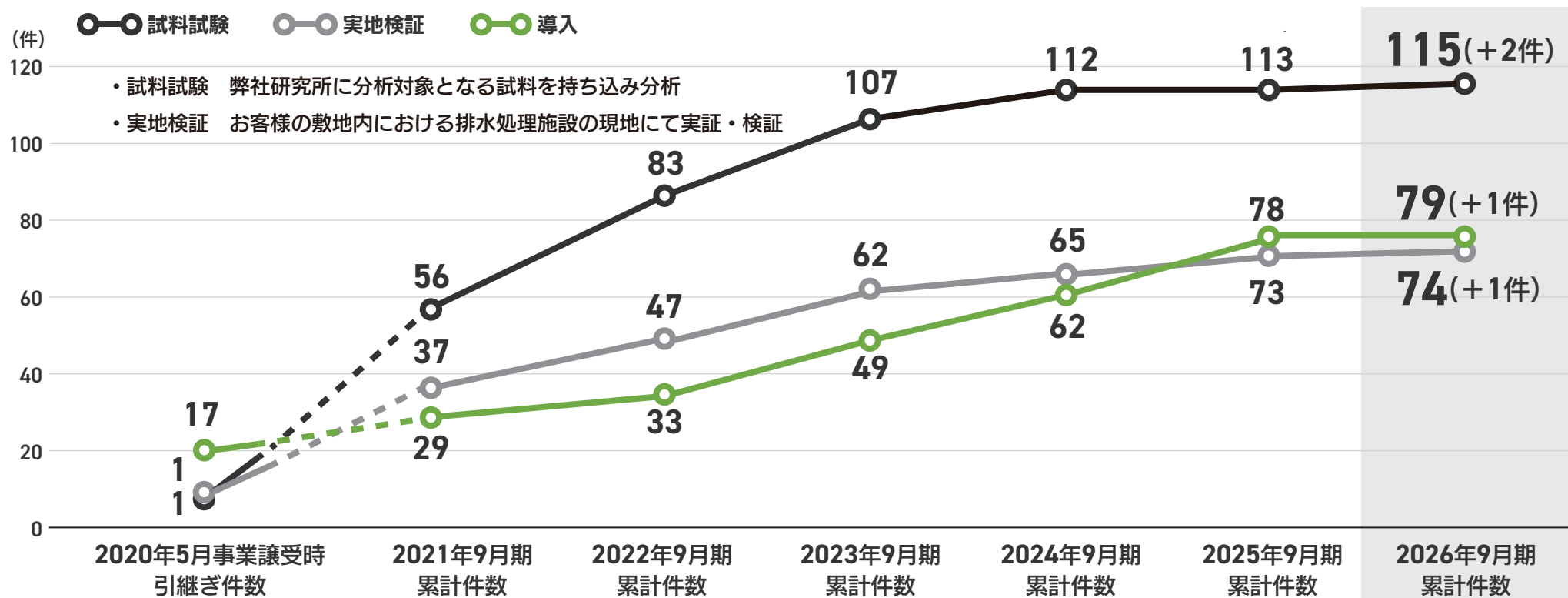
事業開発・
研究開発の状況

04

04

排水処理剤、試料試験・実地検証の件数推移

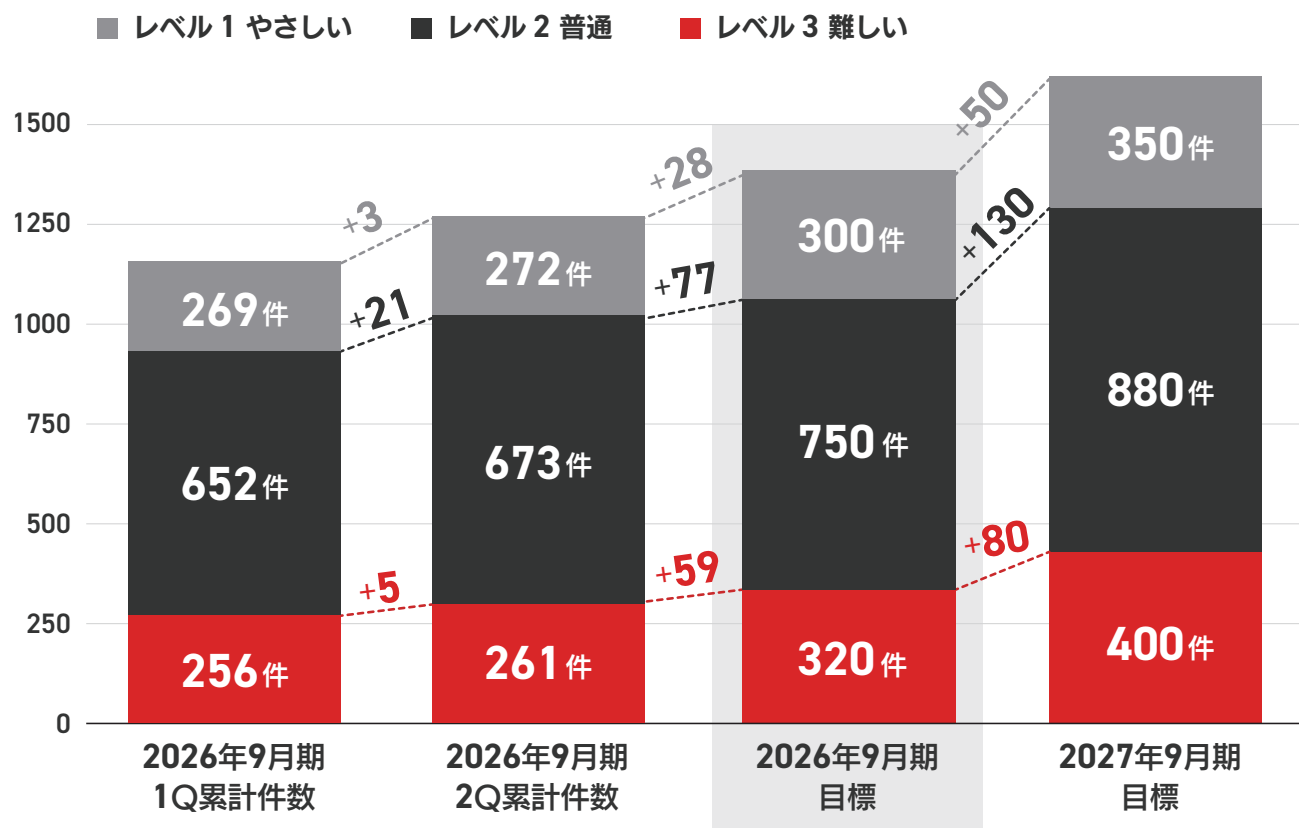
継続的な営業活動の推進により実地検証および導入の件数が拡大



04

JES グループ累計 資格取得数

グループ全体での資格取得推進を図るとともに、JES アカデミーを活用した実践的な教育に尽力し、後継者の育成とスキル向上を通じて、組織全体の発展に寄与



2026年9月期

レベル1 272件 レベル2 673件 レベル3 261件

※なお、取得難易度に応じてレベル区分をしております。

累計件数
1,206件



2026年9月期
株式情報・株主還元

05

2026年9月期は、年間配当を**18円/株**へ増配予定。

上場以来継続して**4期連続増配**。

第2四半期 中間配当を9円/株、期末配当を9円/株とし、

安定性・継続性のある累進配当に加え、**利回りを重視した株主優待制度**も継続して実施

2026年9月期（予想）

中間配当	9.00円/株
期末配当	9.00円/株

年間配当	18.00円/株
年間株主優待	30,000円 (クオカード)

2025年9月期

中間配当	8.66円/株 ※1
期末配当	9.00円/株

年間配当	17.66円/株
年間株主優待	30,000円 (クオカード)

※1 2025年4月1日をもって、当社株式を1株につき3株の割合で分割しております。当該分割後を基準に算出した数値を表示しております。

株主優待制度の変更（拡充）

株主様への還元強化を目的として、優待の対象範囲を保有株式数6単元以上から5単元以上へと刷新。
2026年3月末日現在の株主名簿に記載された株主様より適用



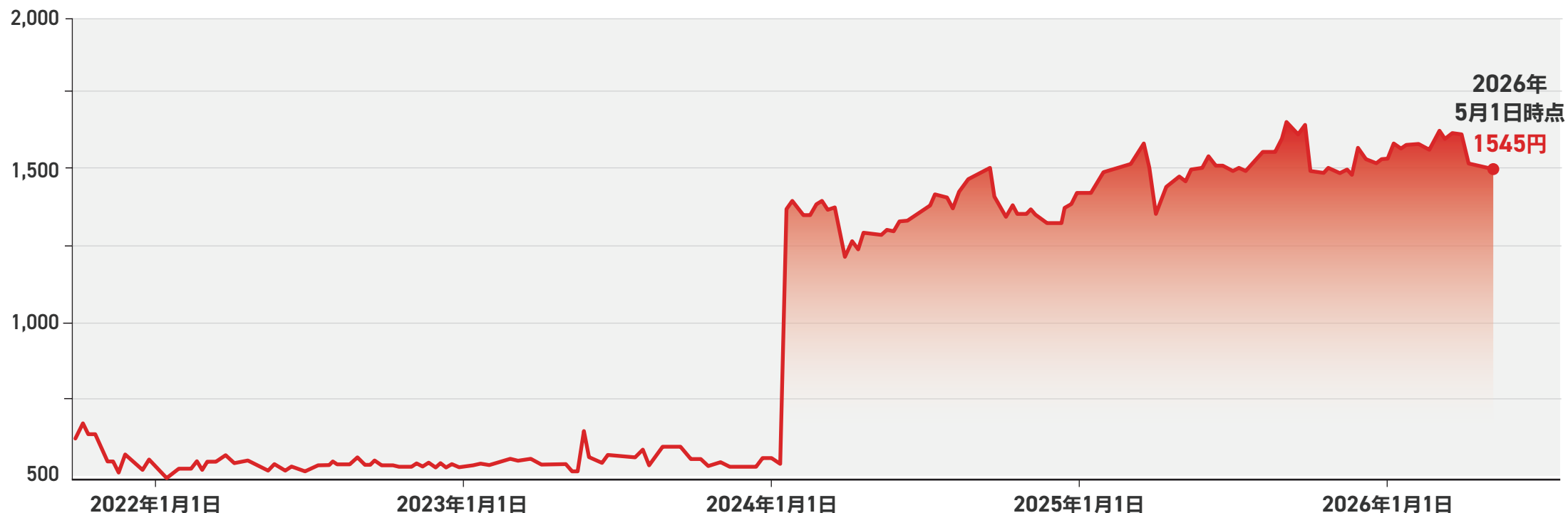
変更後 5単元（500株以上）

毎年3月末日 5単元（500株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分
毎年9月末日 5単元（500株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分

現行 6単元（600株以上）

毎年3月末日 6単元（600株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分
毎年9月末日 6単元（600株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分

株価^{※1}は約3年間で約2.3倍^{※2}に上昇。株主優待により株価急騰するも、その後も堅調に推移



※1 2025年4月1日をもって、当社株式を1株につき3株の割合で分割しております。当該分割後を基準に算出した数値を表示しております。

※2 上場時（2021年10月8日）と資料作成時点（2026年5月1日）の終値を比較しています。



役員紹介

06



社会・環境と共に発展できる 「エコシステム」の実現へ

社会への貢献を第一と考え、
多様化する社会のニーズに応え続けるために、
より一層の企業価値向上に努め、社会に必要とされ続ける
「300年企業」の創造を目指してまいります。

代表取締役社長 松島 穰

06

役員紹介



松島 穰
代表取締役社長



中村 成一
専務取締役
交通インフラ事業担当



奥村 泰典
常務取締役
ファシリティ事業担当



内田 敦
取締役
グループ会社事業推進担当
交通インフラ事業担当



稲生 篤彦
取締役
管理本部担当



瀧本 裕二
取締役
環境事業担当



杉戸 俊之
独立社外取締役



田野 好彦
独立社外取締役



伊東 史子
独立社外取締役



亀山 直人
取締役常勤監査等委員



加納 正二
独立社外取締役監査等委員



南 善隆
独立社外取締役監査等委員



会社概要

07

会社名 日本エコシステム株式会社

会社所在地 愛知県一宮市本町 2 丁目 2 番 2 号
JES 一宮ビル 11F

代表者 代表取締役社長 松島穰

事業内容

■ ファシリティ事業

防災合板の製造販売、空調給排水衛生設備の施工・管理、
公営競技場におけるトータリゼータシステムの設計・製造・販売・
機器設置・メンテナンス、AI・ICT ソリューション

■ 環境事業

排水浄化処理および水循環・アクアリウムに関する事業、
再生可能エネルギー発電設備の開発・販売・設計・施工

■ 交通インフラ事業

高速道路を中心とした電気通信設備・ETC保守、橋梁・構造物の
点検、道路・公共設備の照明灯工事、道路等の維持修繕工事

資本金 1,005,097,563 円
※26/3/31 時点

決算期 9 月

発行済株式数 8,713,200 株
※26/3/31 時点

従業員数 連結 763 名 (平均臨時雇用人員含む)
※26/3/31 時点

監査法人 有限責任中部総合監査法人

上場市場 東京証券取引所 スタンダード市場
名古屋証券取引所 メイン市場
札幌証券取引所 本則市場



ファシリティ



7社

- 日本ベンダーネット株式会社
- 中央警備保障株式会社
- OTS 株式会社
- JES ファシリティーズ株式会社
- 株式会社ワンズライフ
- 株式会社エコベン
- ベニクス株式会社

※1

交通

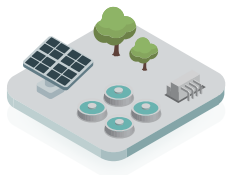


8社

- JESモビリティサービス株式会社
- 株式会社日新ブリッジエンジニアリング
- 株式会社興電社
- 株式会社テッククリエイト
- Jes 東海通建株式会社
- 株式会社三進
- 株式会社カムラ技建
- 大鐘測量設計株式会社

※1

環境



1社

- JESテイコク株式会社

※1

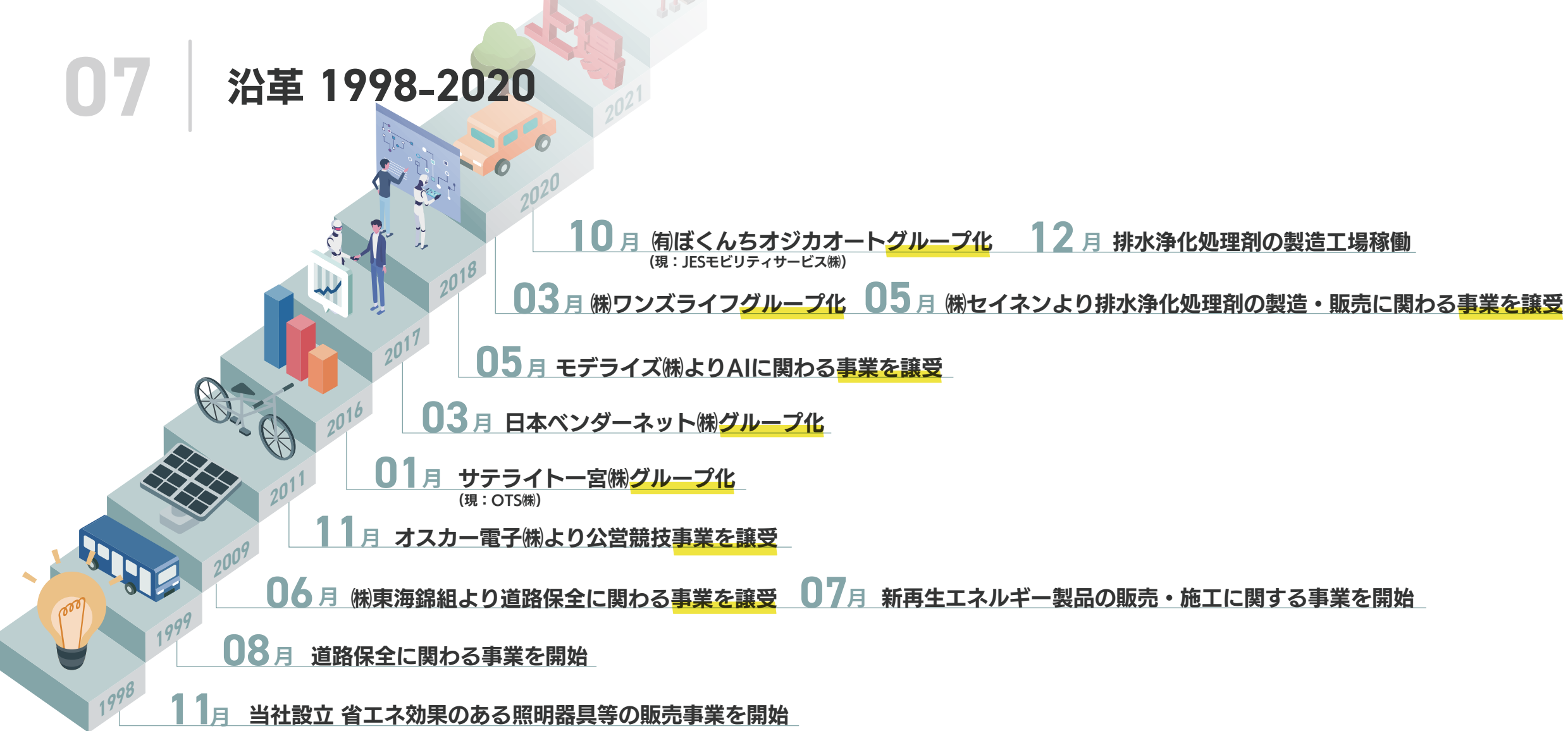
アセット
マネジメント

4社

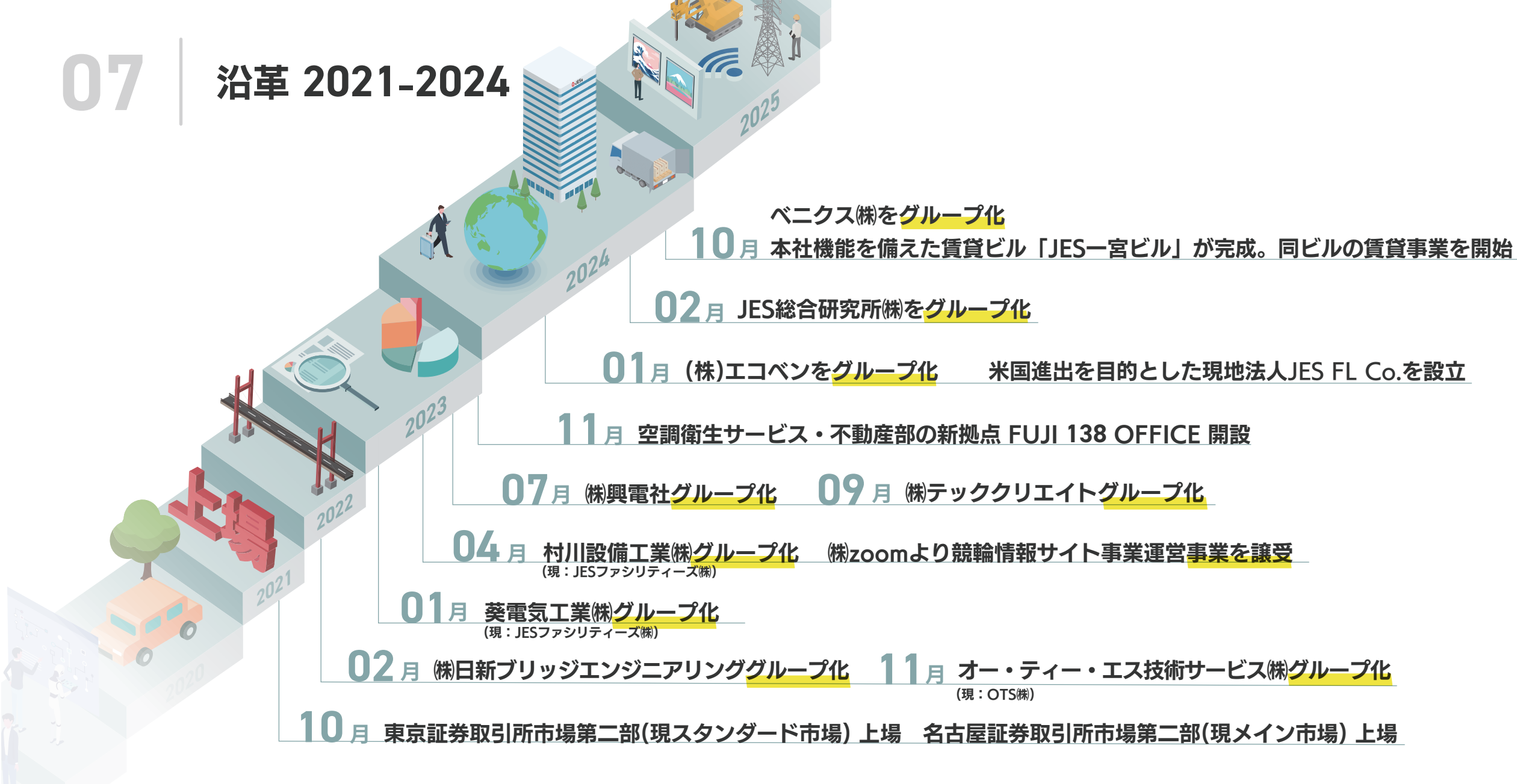
- JES総合研究所株式会社
- JES FL Co.
- 株式会社宇佐美松鶴堂
- 株式会社文光堂

※1

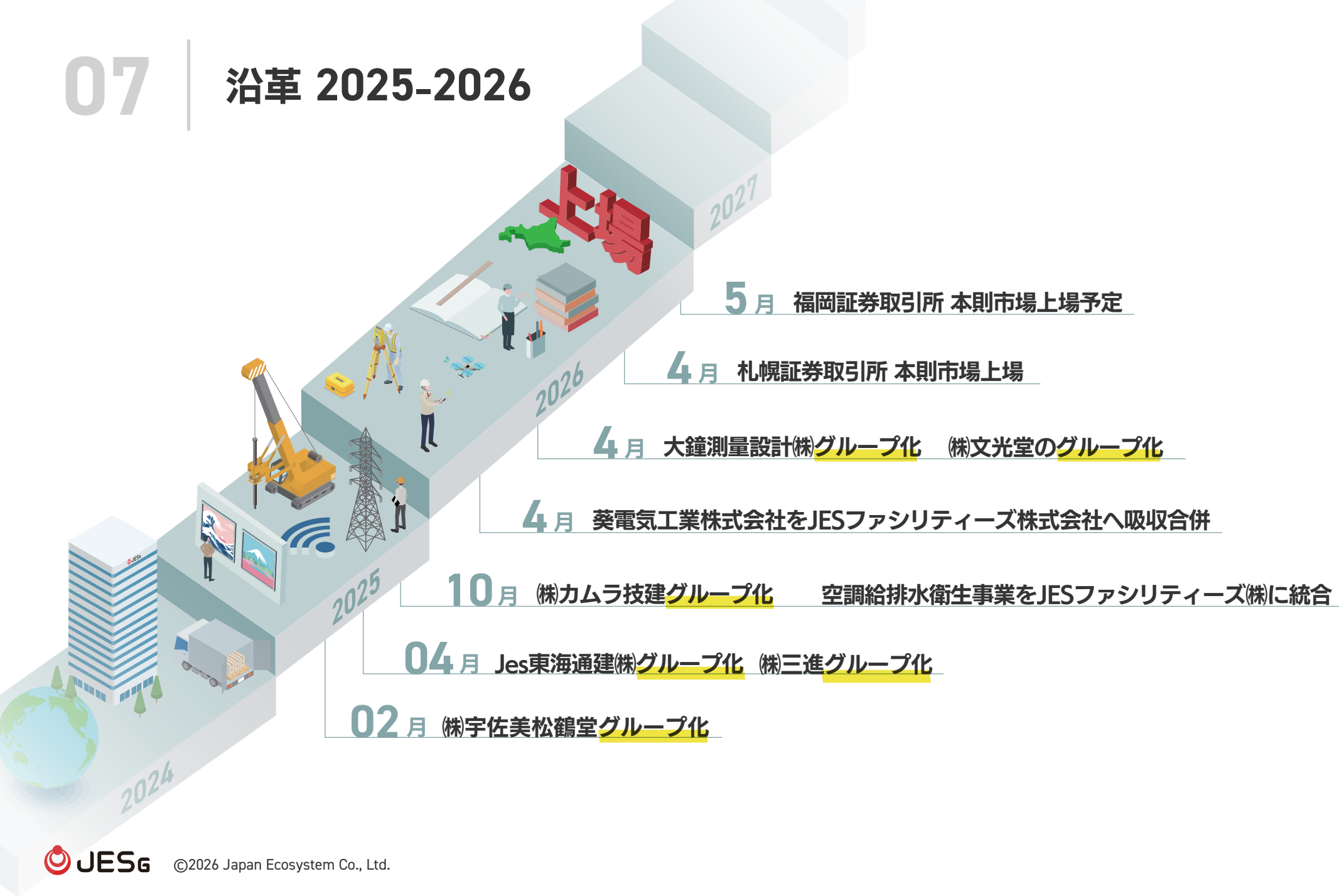
沿革 1998-2020



沿革 2021-2024



沿革 2025-2026



M&A および事業譲受の実績 25 件

上場前 9 件

上場後 16 件



■ 事業譲受 ■ グループ化

中部地方を起点に73拠点 M&Aで全国各地へエリア拡大

海外
グループ
1拠点



アメリカ グループ拠点
JES FL Co. 本社

九州
当社
1拠点



京都 グループ拠点
宇佐美松鶴堂 本社

中国・四国
グループ
6拠点



金沢 グループ拠点
テッククリエイト 本社

近畿
グループ
2拠点

東海・北陸
当社
11拠点



愛知 FUJI 138 OFFICE

関東
当社
1拠点

グループ
4拠点

東北
グループ
2拠点



東京 グループ拠点
日本バンダーネット 本社

北海道
グループ
1拠点

〔 JESグループ共通社是 〕

み こう どう
未 晃 道

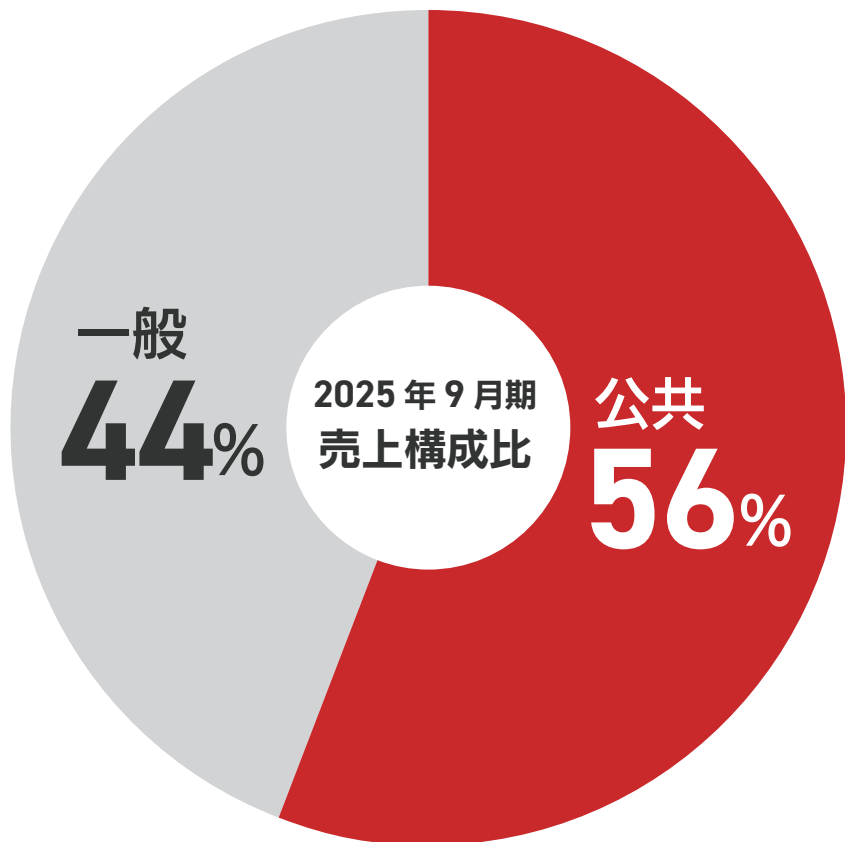
未来の地球を照らし、輝き続ける事業を創造します

〔 経営理念 〕

事業を通じ、物心両面の幸福を追求すると同時に、
かけがえのない地球環境の維持にも貢献します。

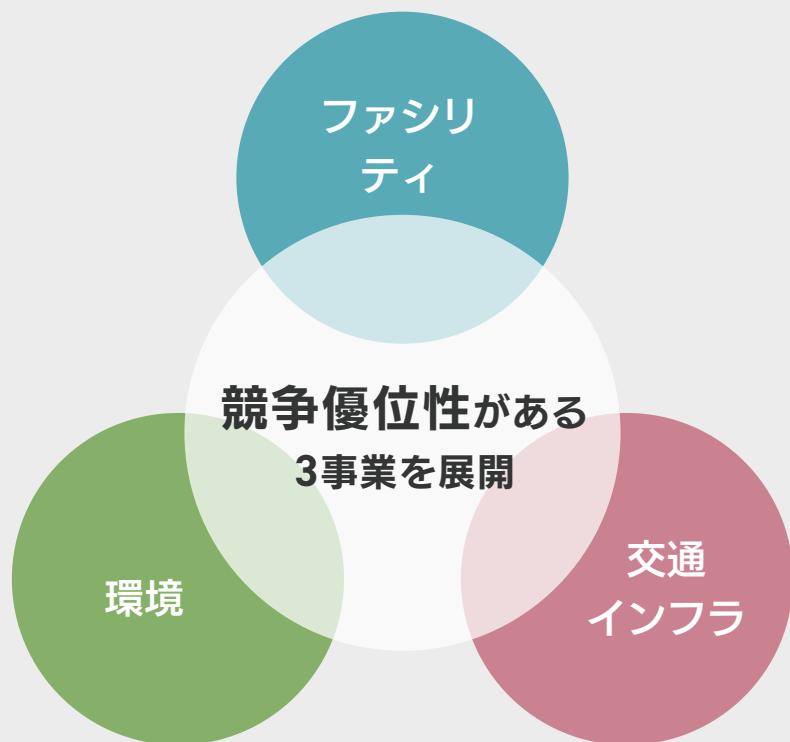


社会の課題を解決し、必要とされ続ける
300年企業を創造



BtoP (Public) を中心とした
安定性の高い領域で事業展開

当社グループは競争優位性がある
ファシリティ・環境・交通インフラの
3セグメントより構成



ファシリティ

企業や自治体が使用する設備(空調給排水・電気・機器・木材等)といったハード面から公営競技運営・イベント企画・警備・AI・ICT等のソフト面まで幅広くサポート。

環境

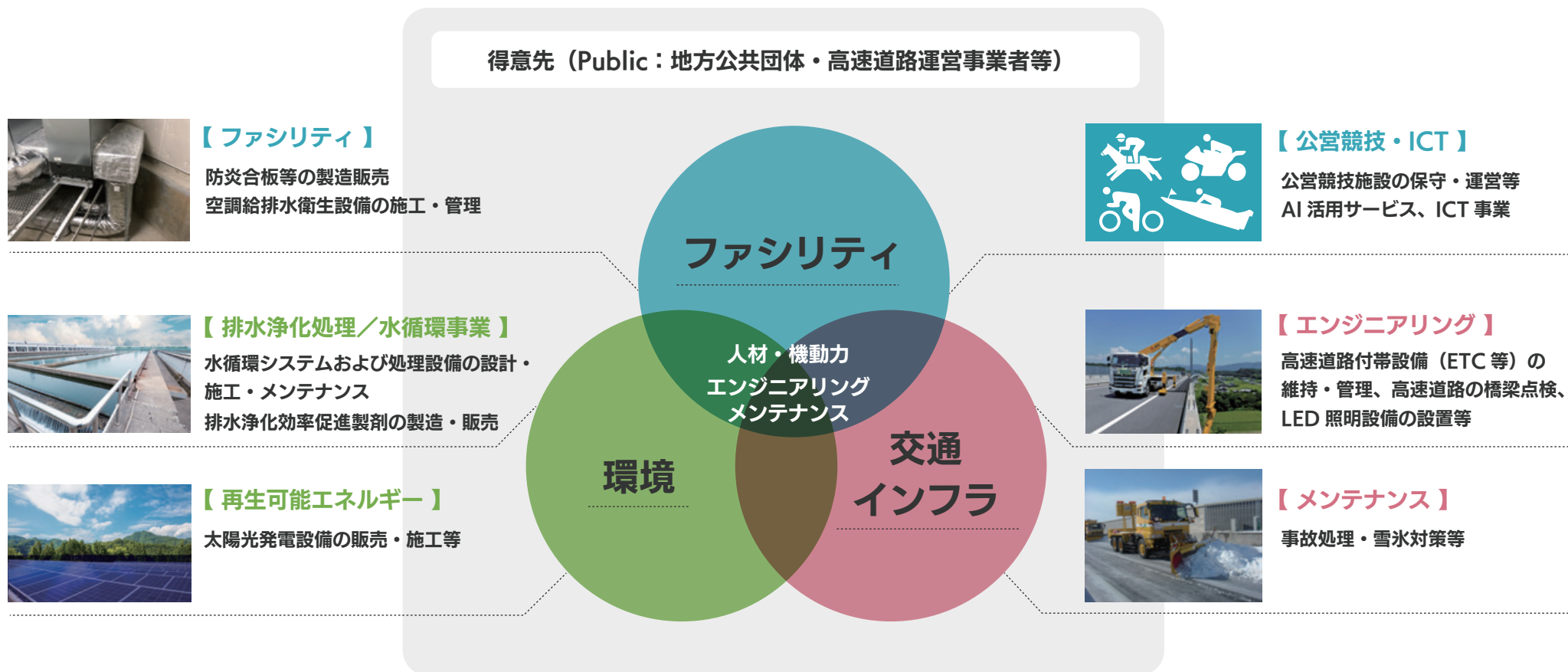
再生可能エネルギー事業に加え、排水処理事業・水循環事業を開始。長期成長分野の事業として育成中。

交通インフラ

主に自治体・中部エリア高速道路運営事業者からの委託を受けて構造物点検や電気通信設備・ETC等の保守サービスを展開。高度な安全技術で高付加価値の高い収益性を実現。

当社グループと主要セグメント

エンジニアリング・メンテナンスを強みに公共施設・環境関連向け「**社会インフラサービス企業**」として事業展開



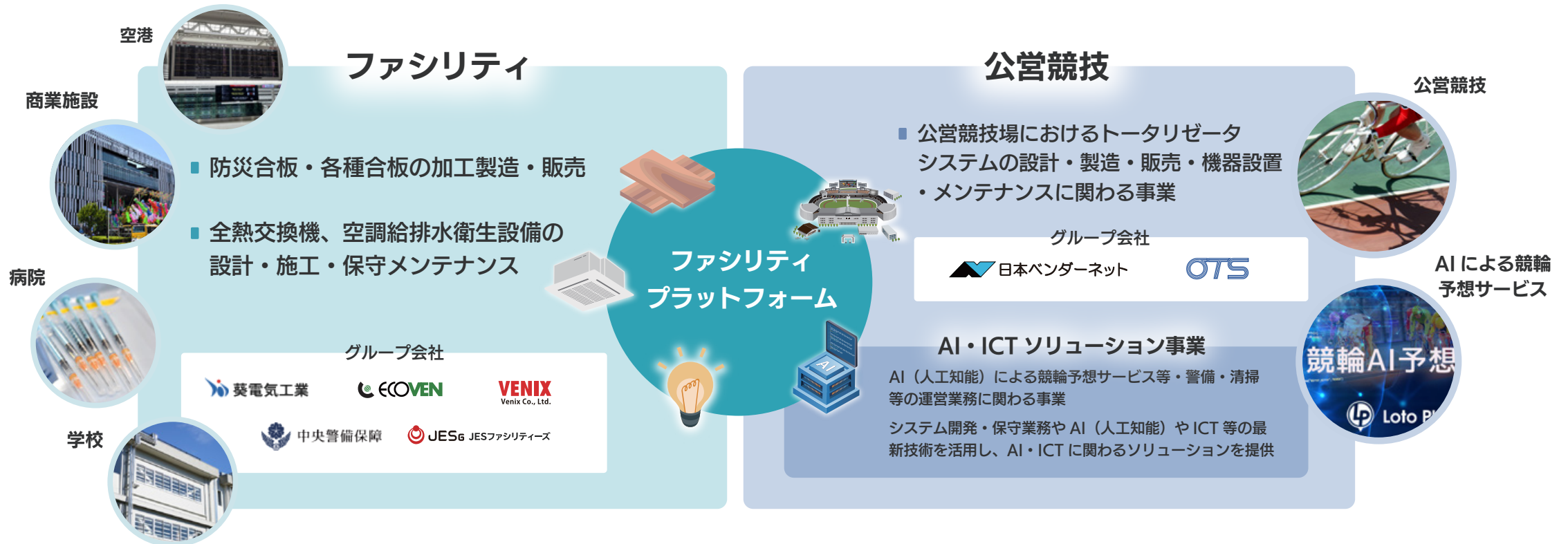
各事業分野のポジショニング - JESG VISION 2030 -

● ファシリティ事業 ● 環境事業 ● 交通インフラ事業 ● アセットマネジメント事業

<p>注力分野 積極的な投資で事業拡大</p> 	<p>空調給排水</p> 	<p>道路エンジニアリング</p> 	<p>建設コンサル</p> 	<p>水族館 水槽・設備</p> 	<p>再生可能 エネルギー</p> 
<p>深化分野 効率化で収益性向上</p> 	<p>道路メンテナンス</p> 	<p>防災合板 パネル</p> 	<p>公営競技</p> 	<p>産業用LED</p> 	<p>不動産</p> 
<p>長期成長分野 研究開発や新事業創出</p> 	<p>水処理 システム</p> 	<p>排水浄化 プラント</p> 	<p>AI・ICT ソリューション</p> 	<p>文化保全</p> 	<p>海外展開</p> 

ビジネスモデル ファシリティ事業

- ファシリティ事業では、地域社会の快適性・利便性向上に貢献する生活インフラサービスを提供
- 公営競技事業では、地域活性化に資する社会的意義の高い事業を展開



- 2020年より排水浄化処理事業を開始、長期成長分野の事業として育成中
- 産業用太陽光発電設備の施工および売電が現在の主力事業



- 高速道路上のエンジニアリング&メンテナンスに特化
- 高度な安全技術で高付加価値の高い収益性を実現





Appendix

08

JICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業」採択

採択内容と提案事業の概要

当社が提案した「産業用太陽光発電設備向けリパワリングEPC ニーズ確認調査」が、独立行政法人国際協力機構（JICA）の2025年度「中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）」に、2025年12月19日付で採択されました。本調査では、当社の産業用太陽光発電リパワリングEPCサービスのタイ国展開に向け、市場規模や法制度、競合状況の調査に加え、現地代理店候補の発掘・検討を行い、同国の再生可能エネルギー拡大に貢献することを目指します。

関連するSDGsビジネスの目標

4 質の高い教育を
みんなに



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



12 つくる責任
つかう責任



現地調査

タイ

03

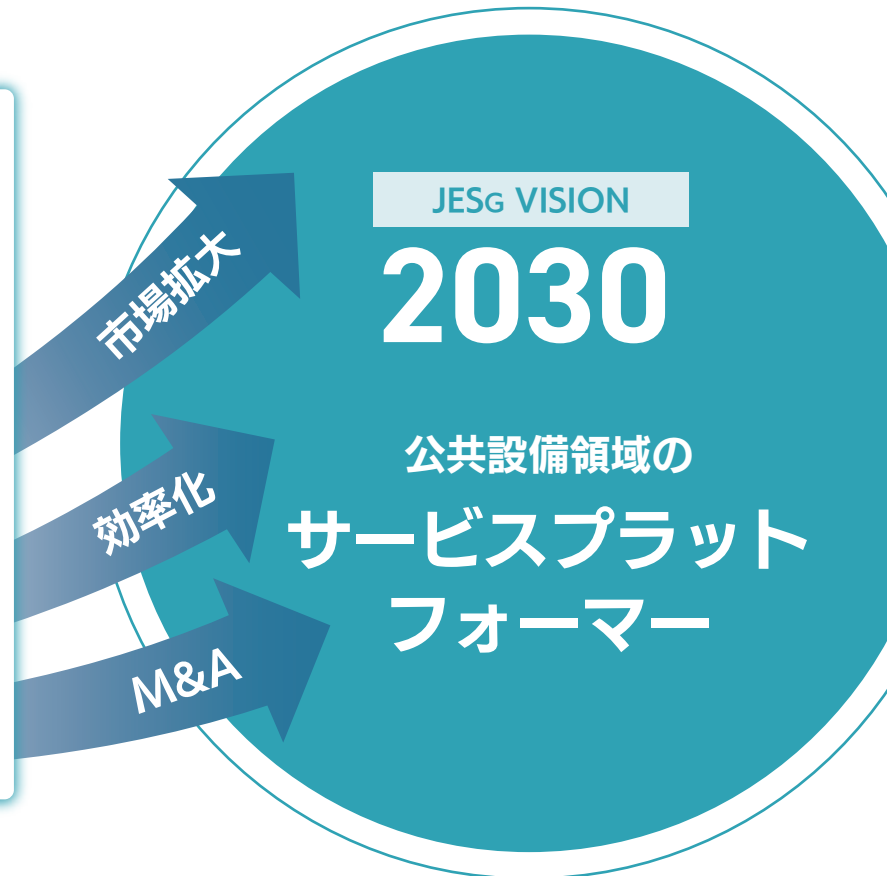
葵電気工業がJESファシリティーズに統合

今後の展開

ファシリティ事業のグループ集約を段階的に推進
公営設備領域のサービスプラットフォームへ

2025年10月

2026年4月



03

浜松事業所移転のお知らせ

成長を加速する新拠点へ 浜松事業所移転

交通インフラ事業のさらなる成長と事業基盤の強化を目的に、浜松事業所は浜松浜北IC近くへ移転いたしました。本移転は、拡大する交通インフラ分野における需要への対応力を高めるとともに、現場対応力および機動力を一層強化するための戦略的な取り組みです。浜松浜北IC近くという高いアクセス性を備えた立地を最大限に活かし、迅速な意思決定と柔軟な事業運営を実現してまいります。また新拠点では、業務効率の向上にとどまらず、部門間の連携強化や人材の活躍を最大化する環境づくりを推進し、持続的な事業成長に向けた強固な基盤を整えてまいります。



地域とともに未来を育む スポーツ支援活動

当社は株式会社AVANTIAとともに、地域貢献活動の一環として、愛知県のスポーツ振興および地域活性化を目的に、2025年11月22日（土）・23日（日）開催の「第42回愛知県スポーツ少年団サッカー交流大会」と、2025年12月7日（日）開催の「第48回愛知県スポーツ少年団剣道交流大会」に協賛しました。両大会では、表彰記念品や副賞、参加賞の提供に加え、剣道大会では体験イベントも実施し、子どもたちや地域の皆さまがスポーツを通じて交流し、地域全体が一体となって盛り上がる場を創出しました。今後も地域に根ざした取り組みを通じ、次世代育成と地域活性化に貢献してまいります。



地域と繋がるJES一宮ビル アートプロジェクト

2025年11月8日（土）・9日（日）に開催された「BISHU FES.」において、京都芸術大学の学生による「JES一宮ビルアートプロジェクト」を実施しました。本プロジェクトでは、サーキュラーエコノミー（循環経済）をテーマに、和紙や卵殻、牡蠣殻などの自然素材を用いた大型アートを制作するとともに、廃材を活用したワークショップを行い、多くの来場者にアートづくりを体験いただきました。さらに、JES一宮ビル入口では地域と連携した展示や企画を実施し、持続可能な社会の実現に向けた当社の取り組みを発信しました。



本資料における注意事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは
現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

本資料及び当社IRに関するお問合せ先 管理本部IR担当

 0586-64-9249

 ir.jesg@jp-eco.co.jp